

大人が楽しめる宮城県図書館見学ツアー

知の宝庫の裏側に潜入

最近の図書館は本の貸し出しの他に、お話会や上映会などイベントを実施しているところが多い。宮城県図書館が毎月第3土曜に企画している「図書館見学ツアー」は、普段入ることのできない図書館の裏側を案内してもらえ、幅広い世代に好評だ。今回は人気の図書館見学ツアーに参加した。

映画のロケ地

今の季節、周囲の木々の緑との調和が美しい宮城県図書館は、蔵書約100万冊を誇る宮城の「知の宝庫」。最近には映画「図書館戦争 THE LAST MISSION」のロケ地になったことでも話題だ。

ツアーは職員の萩平さんの案内で、3階にある閉架書庫の見学からスタート。普段は関係者しか立ち入ることのできないエリアにわくわく。県図書館は全長約200メートル東西に長い4階建てで、果てしなく続く本棚に圧



上段にある色あせた新聞は昭和時代のもの



マイクロフィルム

倒される。まずは新聞コーナー。棚に各社の新聞が重なり、紙の色があせた昭和時代のものもある。萩平さんは「新聞の保存については、保存性に優れた『マイクロフィルム』での保管も並行しています。開架フロアでご覧いただけますよ」とフィルムを伸ばして見せてくれた。自分が生まれた日の新聞を探しに来館する人も少なくないが、

さらに奥へ進むと、棚に納まらないほど大きな本を発見。「約20キロあり、館内では最重量。手に取ってください」と萩平さん

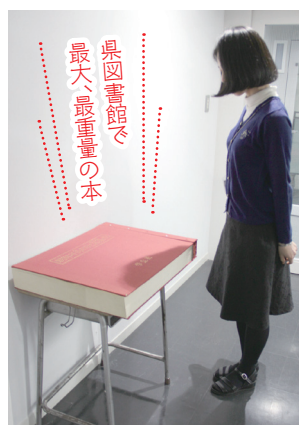
に促され、持ち上げてみるとずっしり。「朝鮮半島地図集成」で、中は地図帳になっていた。

閉架書庫のガラス越しからは、開架フロアにある「調査相談カウンター」の裏側が丸見え。パソコンモニターに向かって仕事をやる職員や、資料が並ぶ作業机を眺めることができるのも面白い。

懐かしの16ミリフィルム

ツアーは中盤に差し掛かり、閉架書庫になって

「図書館は本の貸し出しを行うだけではありません。普段は開架していない書籍や、図書館職員の仕事が見える見学ツアーに参加し、図書館に興味を持っていただけたらうれしいです」と萩平さん



いる4階へ。ボタン一つで操作できる移動棚がびっしりと並び、実はここ、図書館戦争の映画で出演者が書庫の状況を確認に行くシーンが撮影された場所でもある。貸し出しカウンターの

ある3階へ本を送るため、搬送機が用意されているのも裏側ならでは。4階には約2000本もの16ミリ映画フィルムも保管されている。「ビデオ



ガラス越しに調査相談カウンターを見学



4階の閉架書庫はハイテクな移動棚

オテープやDVDなどが普及する以前に活用されていた記録メディア」と萩平さん。県図書館では2014年から定期的に16ミリ映画フィルム上映会を開催し、シニア世代を中心に「懐かしい」と好評だ。図書館見学ツアーへの参加を希望する場合は、当日13:00までに1階の総合案内前に集合のこと。定員は先着20人で、参加費は無料。



宮城県図書館

仙台市紫区紫山1-1-1
開/9:00~19:00 (子ども図書室、日曜、祝日、休日は17:00まで)
休/月曜 (祝日、休日の場合は開館、翌平日休み)
TEL022-377-8441

シニア世代に優しい図書館のサービス

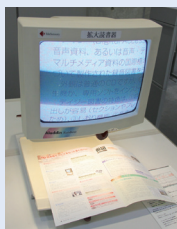
大活字本コーナー

文字のサイズが通常の本より2、3倍大きく、視力が低下しても比較的読みやすい。職員の増子敦子さん(写真)は「歴史、童話、小説などさまざま。『ゲゲゲの女房』など話題の本もあります」と説明する。



拡大読書機

モニターに文字などを大きく映し出す機器。開架フロアに常設されているので、細かい資料などを見る時に便利。



懐かしの16ミリ映画フィルム上映会

年3回13:30~14:30に、図書館2階のミニシアター青柳館で開催している。10月8日(土)は「藩校と寺子屋」(1973年・22分)、「河北新報のできるまで」(1967年・21分)、2017年2月18日(土)は「マッチ売りの少女」(1967年・19分)、「つるのおんがえし」(1965年・18分)、「しあわせの王子」(1975年・19分)を上映する。